

SSKU

2021年度
夏号

お元気ですか？ イリアンソスです。



Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「活動の工夫」

Page6 活動報告

Page7 ファミリーレター



「災害を通して感じたこと」

社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

遭遇した災害

七月一日に浜松の両親の新型コロナウイルスの二回目の接種を行い、副反応もなく無事終わりました。高齢な両親でしたので付き添いをするのができて良かったです。ただ、次の日はご存じのように熱海市周辺で土石流がおき、残念ながら犠牲者も出て大きな災害が発生してしまいました。実はその時わたしは、帰宅途中で運転していません。

早朝のテレビニュースでは新東名高速道路が通行止めで、東名高速道路も沼津IC〜清水ICが通行止めになる可能性があると報道していました。高速道路が使えなくても、普段から時間があるときは、国道一号線などを使って帰宅しており、早めに出発すれば大丈夫と考えていました。天候も回復の兆しをうかがわせる状況でした。

国道一号線は、途中まではスムーズに進みましたが、静岡市内を過ぎ清水区に入ると、渋滞の状況もひどくなり、大雨の影響なのかなと漠然と思っていました。そして、十二時半くらいに道の駅富士で休憩し予定通り富士山の脇を通る一三八号線に向かって富士川沿いを走りました。順調に走っていたのですが、途中雨の量が増え富士山こどもの国の先にある十里木パーキングで通行止めになってしまいました。「えー」という感じです。それまで、グーグルマップには通行止めの表示がなかったため行けると思っていました。頼みのSNSでしたので慌てました。仕方がないので国道一号線に戻ることにしました。地理的には駿河湾へ向かっていく感じです。

やっと新幹線のあたりまで来ましたが、あちこちで冠水のため警察や消防団が道路を閉鎖しており、国道一号線へは行きつけない状況でした。その間、グーグルナビとカーナビを駆使しましたが、自分がどこにいるのか大雑把にしかわからない状況でした。冷静に考えてまず今日中に帰らなければといった考えはやめよう。そして、今いる場所は冠水しているところが多いので、高台の方へ移動しようと考えました。また、川が危険なため警察が通行止めをしているところが多いので、東京方面ではないかといったん戻ることになりました。カーナビが指示する富士ICへの道を渋滞の中進みました。やっとインターチェンジに着いたのですが、やはり高速道路は通行止めでした。しかし、トラックなどが進んでいく道があった

ため、わたしもついていくことにしました。すると富士山の西側を走る富士宮道路とわかり通行止めになっていないかどうか心配でしたがそのまま進むことにしました。さいわい無事山梨県に抜けることができ、中央高速道路を使って一八時三〇分に帰宅することができました。結局九時間かかりました。

普段、慣れた道でしかもカーナビに頼って運転していた状況が一変し、情報が整理できないまま知らない土地で少なくとも何時間もさまよっていたことを考えると自分は災害に直面していたのではないかと思います。日常と災害がこれほど身近にあることを思い知らされた経験でした。土石流の被害に会って亡くなった方々の冥福をお祈りいたします。

特集

新たなこころみ



今回の特集は、コロナ禍の中での新たなこころみを聞きました。創意工夫の中から新たな活動の広がりや楽しみを見つけていくことができました。そんな前向きな取り組みを紹介してもらいます。

〈活動センターかなえ〉

活動センターかなえでは、みんなが楽しめるレクリエーションの工夫を紹介いたします。▼新型コロナ感染拡大防止のため、昨年はレクリエーションで色々な所に出掛けることや、調理をすることが出来なくなったため「出前を取ってお楽しみ昼食」をおこなってきました。▼今年は感染に気をつけつつも外へ出かける工夫もしていきました。なのはな班は活



動センターかなえが運営している東久留米市役所内にある「かふえてん」にコーヒーを飲みに行きました。▼今までは自販



機でジュースを購入することが多かったですが、喫茶店でゆっくりとした時間を過ごすことができました。お楽しみ昼食も「出前」から少し足を伸ばして、野菜ソムリエが作ったお弁当を車で買いに行きました。▼昨年の経験を活かしながら選択肢が増えてきました。利用者の皆さんも「次は何かな？」と楽しみになってきたようです。▼室内の活動では、夏本番に向けてかき氷機を購入しまし

た。五感で涼しさを感じられるような活動を計画中です。シロップを選べたら楽しいかも：トッピングを考えよう：美味しい妄想は膨らみます。▼室内での時間が増える中で新たな活動も考えました。館内での宝探しゲーム！写真に写っている物を館内から探してきます。それぞれ点数があり、一番高い点数の物を持ってきた人の優勝です。いつもは仲間と仕事に集中している部屋も雰囲気ガラリと変わり、白熱の勝負の舞台になり大盛り上がりでした。▼少しの工夫やアイデアで日常が

大きく変化していつもと景色も変わります。これからも共にアイデアを出しながら、新たなこころみをしていきたいと思います。





初めての色選びで照れ笑い M さん

「なかまの家」
今年度なかまの家では、支援の柱の中の一つに「意思決定支援」というキーワードを掲げて取り組んでいます。▼私達は生活の中でいくつもの選択を繰り返しながら暮らしています。「朝ごはんはパンにしようかご飯にしようか」「どんな服を着て出掛けようかな」などなど。言葉による表現が難しい利用者の方は思いを伝える手段がわからず、与えられるままになってしまいがちです。▼「選ぶ」ということを一番身近で分かり易く経験出来る場面として「公園に行つて自販機で好きな飲み物を選ぶ」というもの



陶芸の先生の工房で奇跡の笑顔 T さん

があります。コロナ禍でそれまで当たり前に行っていた外食や旅行、行事などが出来なくなり、感染リスクの心配が一番少ない方法で行ける唯一のレクリエーションとして毎週小人数で出掛けています。

▼ある日のレク① Mさんの姿

コーラが大好きなMさん。ボタンを押し間違えて違うものが出てしまわないよう、先回りをしてスタップがボタンを押し、Mさんにコーラを渡していました。自販機の前に立つと「カフェオレ」のボタンを押すMさん。次に「好きなものを選んで」とお金を渡すと、上手に投入口にお金を入れ、またまた「カフェオレ」のボタンを押すMさん。「コーラが好き」はスタップの思い込み？それとも今日はカフェオレの気分？自分で選んだ飲み物を美味しく飲むに飲み干しています。

▼ある日のレク② Tさんの姿
四月 思わず焦って、押し間違えてし



真剣な表情の M さん

まった!!
五月 「マンゴージュース」のボタンを押そうとしたけど、結局「コーラ」を押す。なんか間違えたかなーと思いつつ、飲んでいるTさん。
六月 「ミルクティー」と言いながら、「ミルクティー」のボタンを押すTさん。美味しそうに一気飲み。▼コロナ禍で楽しみの選択肢が激減してしまい、マイナス面ばかり考えがちですが、限られた条件だからこそ、繰り返し経験を重ねることが出来ました。いつものレクも「失敗してもいいから自分で選ぼう」と視点を考える事で、新たな気づきが生まれました。今後とも日常の中の「選ぶ喜び」を沢山見つけて行きたいと思えます。



くぞみの家

▼二〇二〇年コロナが流行し外活動が自粛され、のぞみ内の活気が奪われました。その中でも利用者さん、スタッフの気持ちの中には熱いものがありました。コロナニナンカマケナイゾ! ▼限られた条件の中で、皆で笑えるように、楽しめるようにのぞみで過ごす時間にも工夫する気持ちが生まれました。▼室内の活動として季節を感じようと夏祭り・クリスマス会・ハロウィン・身体を動かす目的で行っていたPK・ボーリングに加えて様々なゲームを考え、的当て・輪投げ・借り物競走・玉入れ、最近では牛乳パックでジェンガを作りました。ジェンガからドミノ倒しに発展して楽しんで

います。▼班の様子としては、おひさま班は音楽が好きな利用者さんが多いのでペットボトルにどんぐりを入れて、マラカスを作り音楽活動へとつながりました。ピアノに合わせて楽器を鳴らし楽しい時間になっています。▼たんぽぽ班では自粛中はパック回収ができなくなり、体力温存の為に午前・午後と2〜3人で散歩に行くのが日課となりました。一週間に二〜三回は皆さん散歩に行くことができていますので、いつ回収が始まっても大丈夫な状況です。▼チャレンジ班は外出ができないと言うことで、体力づくりとして朝の会の時にラジオ体操を始めました。youtubeから色々なラジオ体操の画像を出して、体操をしています。仕事始めの準備体操として皆さん映像に合わせて身体を動かしています。そしてレクにも行けないので、楽しい時間をつくらう!とゲームをする時間ができました。ブラックボックスゲームは想像以上に盛り上がりました。▼全体としてマスクが出来るようになった利用者さんも増え、手洗いはマメに行うことができ風邪予防にもなりました。▼まだまだ落ち着かないコロナ状況ですが、その中でも利用者さん、スタッフで楽しいこと・美味しいことをみつけて笑顔あふれるのぞみの家でありたいと思います。



活動センターかなえ

活動センターかなえが運営する「かふえてん」に出掛けてきました。それぞれ、好きな飲み物を注文して、ゆっくりとした時間を過ごしました。

「かふえてん」では活動センターかなえの利用者さんも働いています。接客する仲間の頑張りも見ることができました。

普段のお仕事でてんの布巾たたみもおこなっているのですが、仲間や本人たちが関わっている仕事の場所見るとは、良い刺激になったかと思えます。

外出があまりできない中で近場ではありますが、仲間と一緒に飲み物を飲みながらのんびりできる時間が作れてよかったです。



のぞみの家

ケータリング企画を実施しました。コロナ禍で活動が制限される中、利用者さんの「楽しいことがしたい!」という声から実現に至りました。

昼前になると業者の方が次々と料理を運んできて準備を始めます。それぞれの前には色鮮やかな料理がお重に入られて並びました。メインの料理は目の前でカットされるローストビーフ! その様子を真剣な眼差しで見つめています。

五感で楽しみ、お腹も笑顔もいっぱいの一日になりました。



ファミリーレター

イリアンソスの利用者さんのご家族に幼少期のお話やお子さんへの願い、利用者さんに関わるスタッフに伝えたいこと等をお聞きしました。第一回目は「なかまの家」の深山一郎さんのお母さま深山ヨシエさんにお話を伺いました。

三三三九元気な男の子が誕生しました。五体満足に生まれ、病気も無くすくすく育った一郎さん。お母さまは夢や希望を持ちこの子に障害があるとは思いませんでした。そのうち言葉が遅いな…とは思っていましたが、男の子だから遅いのだろう…と置いていました。幼少期になっても言葉が出ないなど感じ何でだろう…という気持ちの方が大きかったそうです。そのうち障害があるとわかり、東久留米市にある児童発達支援センター「わかくさ学園」に通い、そして清瀬養護学校で学生生活を楽しんだのちに、山形の大型施設に入所が決まり長く親しんだ町を離れることになりました。

大自然に囲まれた施設でした。利用者さん八〇名の中で新しい職員になかなかなじめず、一郎さんもお母さまも大変苦労されたそうです。そんな苦しい時期に当時、のぞみの家の施設長だった磯部（イリアンソス理事長）さんより「法人で生活寮ができるから一郎さんどうですか？」とお話がありました。また長く親しんだこの町に帰って来ることができませんでした。しばらくは環境の変化に一郎さんはなじめず、お母さまは毎日、毎日常生活寮に通いました。開所時から一〇数年が経

ち、最初は色々なことがありましたが、今では自宅より落ち着いて過ごせる場所となりました。
母さまにいくつか一郎さんのことについて聞いてみました。
今後の暮らしの希望はありますか？

とにかく素直に穏やかに過ごしてほしい。そして欲を言えば自分でできることを少しでも努力して一人でできることを増やしてほしい…私の欲ねえ…

職員に伝えたいことはありますか？

背が大きくて普段吹っ飛び回っているけど、神経が本当は穏やかで気は優しい子です。それがなかなか体つきと行動で外からではみえないんだけど…でも色々関わってわかっていくんだけど、今の職員はわかってくれていて、その気持ちを汲んでくれたらもう何も高望みしない。これからも一郎らしく穏やかに楽しく暮らしてほしいです。

お話の最後にお母さまは「親子ともに今の暮らしが幸せです。この幸せを壊したくない。壊せないよね…」とおっしゃっていました。貴重なお話をありがとうございました。



ご寄付をいただきました(6月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 小寺あずみ様 板垣順子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23
042-473-9667

～編集委員のつぶやき～

コロナ禍でストレスも溜まっている人もいますが、生活に困っている人、職を失う人、生きていくために困難な人もいます。関わっている利用者さんは元気で、新たに加わるスタッフがやりがいを持って共に活動できる事に感謝です。

廣 智章 (のぞみの家)

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員》

磯部光孝・鈴木友佳里・多田由美・花形優・疋田史江
廣智章・福田恵・松森大輔・吉坂慧佑・吉田遊佑

※ホームページからもご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

表紙の写真

なかまの家と活動センターかなえの
市報折りの仕事です。

皆さん真剣な表情です。



挿絵：くらげ (ペンネーム)